

## 1 第1次札幌市環境基本計画の目標年次の考え方

○札幌市環境基本条例で定める環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定されたものであり、条例で定める「長期的な目標」や「施策の方向」等を示すものとして、**20年間（1998年度～2017年度）を計画期間**とした。

## 2 目標設定における現状の課題

- 第1次計画は1998年10月に策定し、その後2005年に一度改定を行ったものの、この10年の間に下位計画である「札幌市温暖化対策推進計画」や、一般廃棄物処理基本計画である「スリムシティさっぽろ計画」など既存計画の見直し、「生物多様性さっぽろビジョン」などの新たな計画の策定など、**現行の計画と不整合が生じている**。
- また、改定以降、「環境首都・札幌」宣言や、東日本大震災の発生、国における新たな温室効果ガス削減目標の決定など、**本市における環境施策の変化や、社会情勢の変化にも対応すべき状況**にある。

## 3 他都市の状況

- 地方公共団体における環境基本計画は、1993年の環境基本法の制定及び1994年の国における第一次環境基本計画の策定以降、都道府県や政令指定都市を中心に策定が進められた。
- その後、本市と同様に計画の一部改定や全面見直し等を行っており、政令指定都市においては概ね5年～10年強程度の計画期間を設定して計画の推進を図っている。

＜政令指定都市における計画期間及び現行計画での計画目標年度＞

### 【計画期間】概ね5年に設定

仙台市（2020年度）、相模原市（2019年度）、新潟市（2022年度）、静岡市（2022年度）、広島市（2020年度）、北九州市（2016年度）

### 【計画期間】概ね10年に設定

さいたま市（2020年度）、千葉市（2021年度）、横浜市（2017年度）、川崎市（2020年度）、浜松市（2024年度）、名古屋市（2020年度）、京都市（2025年度）、大阪市（2020年度）、堺市（2009年より約10年間）、神戸市（2025年度）、岡山市（2025年度）、福岡市（2020年度）

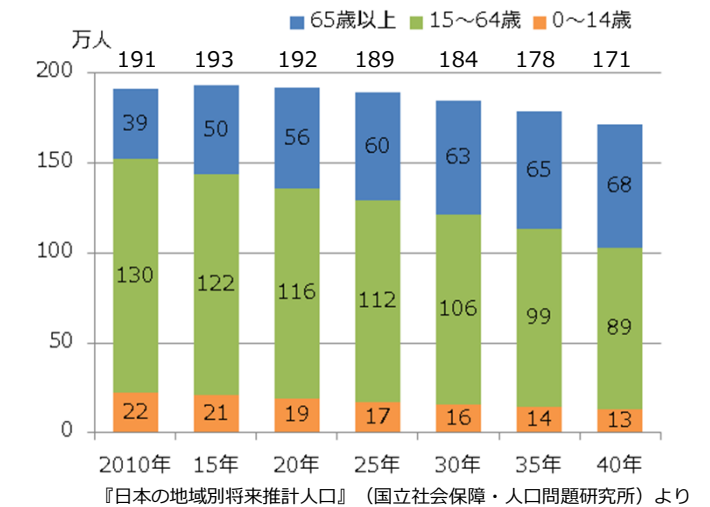
※計画目標年度は各自治体のホームページより札幌市調べ

## 4 札幌市におけるまちづくりや環境施策の計画目標

- 札幌市におけるまちづくりの最上位計画である「**札幌市まちづくり戦略ビジョン**」は、**2013年から2022年度を計画期間**としている。
- また、本ビジョンのうち、都市空間に関わる事項を受けて定める都市づくりの指針である「**第2次札幌市都市計画マスタープラン（2016年3月策定）**」は、ビジョンで示された「都市空間の創造に当たっての基本的な考え方」を踏まえ、目標年次を**概ね20年後の2035年度**としている。
- 環境関連施策においては、「**札幌市温暖化対策推進計画**」で、温室効果ガス削減目標を、**中期目標として2030年、長期目標として2050年**と設定しているほか、「**札幌市エネルギービジョン**」では**2022年度**、「**生物多様性さっぽろビジョン**」では、**2050年を目標年次とする長期的指針とし、2020年頃を目途**にビジョンの進捗状況や社会情勢などを勘案して**見直す**こととしている。

## 5 第2次札幌市環境基本計画の目標設定にあたっての背景

- 札幌市では、近年中に人口のピークを迎え、**市制施行以来、初めて人口減少傾向に転じる**とともに、その**構造が大きく変わる**ことが見込まれている。
- 第2次札幌市環境基本計画では、この人口構造の変化や環境を取り巻く情勢の変化を見据え、**札幌市として目指す将来の姿をいかに描き、それに向かってどのような施策をいつまでに進めて行くか**、その方向性を示すための適切な年次設定が必要となる。



札幌市の人口の将来見通し

## 6 第2次札幌市環境基本計画の目標設定（事務局案）

- 他都市の状況や札幌市における各種計画の状況や、目標設定にあたっての背景、地球温暖化対策や水素社会、生物多様性保全など長期的な環境問題を含む総合計画であることを踏まえ、第2次札幌市環境基本計画は、**「目指すべき札幌市の姿」を2050年頃に設定して将来の姿を描き、それに向って目指すべき「施策の方向性」の目標年次を概ね10年後に設定する**。  
【計画期間】**2018年度～2030年度（概ね10年間）**